

## 10. 調査指導費

### 1) 溪流釣りアンケート

森田 尚・吉岡 剛

【目的】今後の河川漁場の管理運営に必要な情報として、遊漁者の要望や意識を把握することを目的としたアンケート調査を実施した。

【方法】平成12年2～3月の溪流解禁時と4～5月のゴールデンウィークに6漁協に協力を依頼し、遊漁券を購入に訪れた釣人に対してアンケート調査を実施し、解禁時に231名、ゴールデンウィーク期間に93名から回答を得た。

【結果】釣り方：半数余りが餌釣り、4分の1がフライ釣りであった。年齢別には、50歳代以上では約80%が餌釣であるが、年齢層が下がるのに従ってフライやルアー釣りの割合が増える傾向が認められた。

対象魚種：アマゴが約半数を占め、次いでイワナ、ニジマスの順であった。

どのような川で釣りがしたいか：「大物を釣りたい(33%)」と共に「外見の美しい魚が釣りたい(32%)」が大きな割合を占めた。「数をたくさん釣りたい」人が釣りたいと回答した尾数の範囲には5～100尾の幅があり、平均22.2尾であった。

釣った魚の処理：餌釣りの人は4割以上が「全て持ち帰る」と回答したが、フライ釣りの人は逆に半数近くが「全て放流する」と回答した。これはフライ釣りを中心にゲームフィッシングとしての釣りを楽しむ世代が増加してきたことを反映しているものと思われる。「一部持ち帰る」と回答した人が持ち帰る尾数は1～20尾の範囲で、平均7.8尾、「大物は持ち帰る」と回答した人が持ち帰る最低の大きさには12～50cmの幅があり、平均20.2cmであった。

親魚保護のキャッチアンドリリース区間についての意見：全体では約半数が区間の設置に賛成という意見であった。釣り方別にみると、フライやルアー釣りの人では70%前後が賛成であったが、テンカラや餌釣りの人の間でも40%前後の賛成意見のあることがわかった。

【成果の活用】遊漁者のニーズという面から見ると、アマゴを中心とした放流事業を行うこと、若年層を中心に増えてきているルアー、フライ釣りの愛好者に対応できる漁場の運営を考慮すること等が今後重要になってくるとと思われる。また、大物を釣りたいという意見と並んで姿の美しい魚を釣りたいという意見が大勢を占めたことから、漁場自体の生産力を活かした運営を行うことも課題である。

アンケート内容

- ・年齢
- ・性別
- ・釣りはなんですか。(あてはまるもの全てに○)
  - ・餌釣り ・テンカラ ・ルアー ・フライ
- ・対象魚はなんですか。(あてはまるもの全てに○)
  - ・イワナ ・アマゴ ・ニジマス
- ・釣れた魚はどうしますか。(どれか一つに○)
  - ・全て持ち帰る ・大物は持ち帰る ( c m以上)
  - ・全て放流する ・一部持ち帰る ( 尾程度)
  
- ・どのような川で釣りがしたいですか。(どれか一つに○)
  - ・小型でも良いから数をたくさん釣りたい (希望 尾)
  - ・数が少なくても良いから大物が釣りたい
  - ・尾数や大きさより、外見の美しい魚が釣りたい
  - ・釣れなくても良いから、人の少ない場所で釣りたい
  - ・その他
  
- ・親魚保護のキャッチ&リリース区間について。(どれか一つに○)
  - ・キャッチ&リリース区間の設置に賛成である
  - ・キャッチ&リリース区間の設置は必要ない
  - ・キャッチ&リリースという言葉は初めて聞いた
  - ・その他

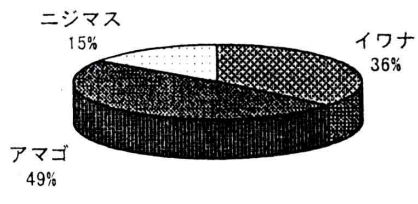
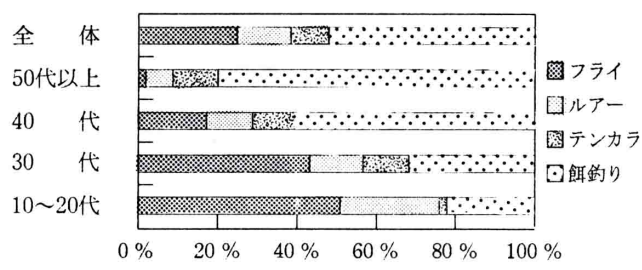


図1. 釣り方は何ですか

図2. 対象魚種は何ですか

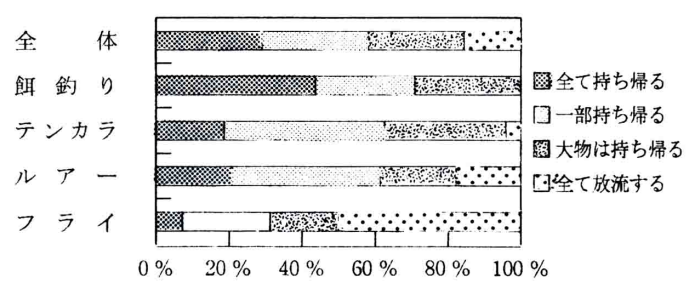
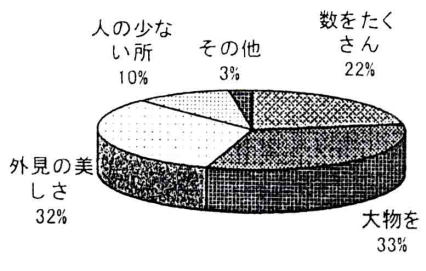


図3. どのような川で釣りがしたいですか

図4. 釣れた魚をどうしますか